

技術体系

アスパラガス(ハウス半促成栽培/全雄系品種(ガリバー等))

作業名	作業内容	時期	投下資材及び使用設備(10a当り)
耕起・基肥施用	定植予定位置の下をバックホー等で30cm以上深耕し、硬盤を破碎した後、完熟堆肥20t/10aを入れ土を戻す	11～2月	完熟堆肥20 t、石灰質肥料200kg バックホー(借入)
定植準備	全層へ完熟堆肥80t/10aと基肥を施用・耕起し、カマボコ型の畝を立てる	3～4月	堆肥80t、燐酸肥料50kg、鶏糞1000kg、高度化成肥料70kg
	畝幅1.5m、水田転換では、高さ25cm以上(水田転換畑では30cm以上)の高畝を立て、灌水パイプを配管する	4月	トラクター
定植	株間25cmの1条植えを基本とし、鱗芽が深さ2cm程度にセル成型苗を植える	5月	直径9cmポット2,000本(セル成型苗を鉢上げ)
整枝・誘引	倒伏防止のため、おおむね3mごとに支柱を立てるとともに、アスパラネットを2段に張る	5月	支柱2m、アスパラネット(15cm升目)
灌水	土壌が乾燥しないように適宜灌水する	5月～	灌水ポンプ
立茎・摘心	1株15～20本程度を立茎させ、株の養成に努める	5月～	ハサミ
茎葉刈取り	茎葉の80～90%が黄化したら茎葉を地際から刈り取り、圃場外へ持ち出す	12月	刈り払い機
圃場焼却	茎葉刈り取り後、圃場全体をバーナーで焼却する 1回目の焼却処理後、くわ等で軽く畝表面の土を掻き落とし、畝面を焼却す	12月	火炎放射器(灯油バーナー)
冬肥施用	冬肥施用、除草剤散布	12月	窒素肥料40kg、除草剤
春肥施用	春肥は溝に施用し、耕起後、施した堆肥等を畝面に上げ、堆肥マルチで被覆する	1月	堆肥4,000kg、石灰質肥料80kg、鶏糞400kg、高度化成肥料80kg
保温	2月中旬からハウスのサイドビニールを閉め、保温を開始する	2月	
収穫・出荷	26～27cmに伸長したものを収穫し、選別機にかける 規格ごとに新聞紙にくるんで、立てて出荷する	3月上～10月下	収穫ハサミ、軽トラック
立茎	茎径1.0～1.2cm程度のものを1株当たり3～4本残し親茎にする	4月上～中	
灌水	乾燥時には、パイプ灌水だけではなく、2～3日毎に畝間にも灌水する	2月～	灌水ポンプ
夏肥、秋肥施用	立茎開始時及び収穫100kgごとに施用する	4月～	高度化成肥料13kg/回
側枝整理・摘心	畝面から60cm以下の側枝は除去する 擬葉が開いてきたら、草丈120～140cm程度で摘心する	6月上～	ハサミ
病害虫防除	定期的な散布に努める 茎枯病、斑点病、スリップス等には特に注意する	4月～	殺虫剤、殺菌剤